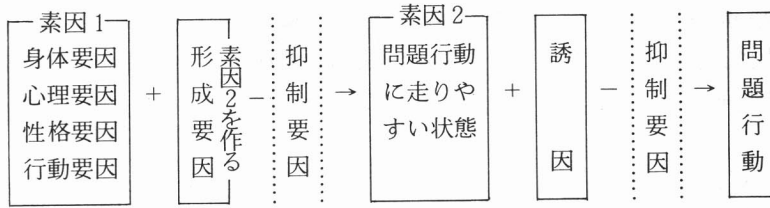
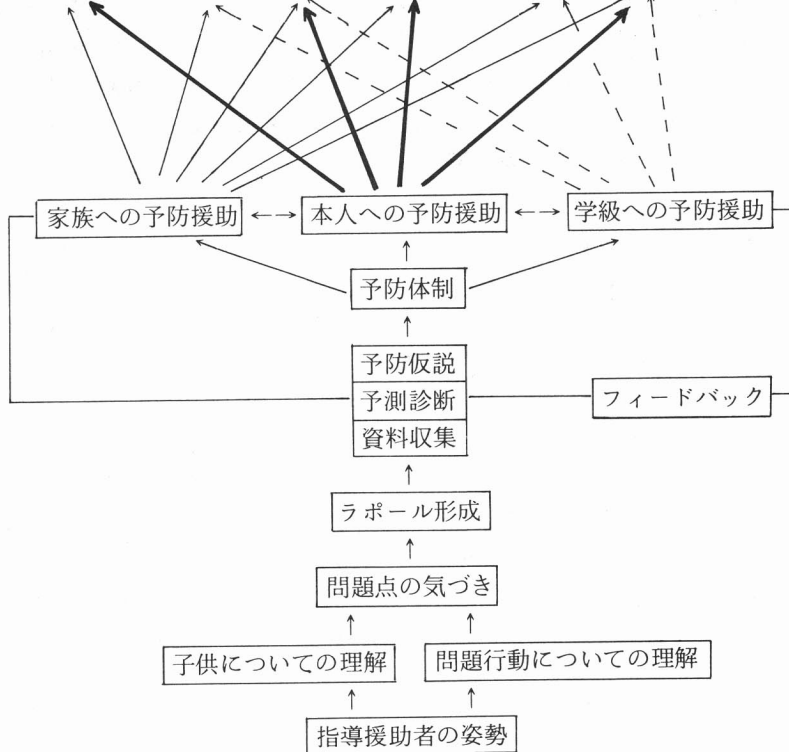


(3) 問題行動の形成と予防過程

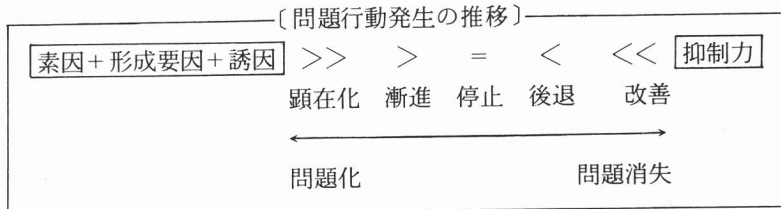


改善, 解決 減弱, 除去 強化 改善, 解決 減弱, 除去 強化



〔不登校の例〕  
 素因1 = 問題行動につながる身体, 心理, 性格, 行動面の問題点 (体力がない, 緊張しやすい, 内気, 神経質, 友達が少ないなど)  
 形成要因 = 問題行動に走りやすい状態を形成する要因 (親の過剰な期待, 両親の不和, 友達とのトラブルなど)  
 素因2 = 問題行動に走りやすい状態 (学校生活に強い不安や緊張を持ち, 友達がいやで集団から逃避しやすいなど)  
 誘因 = 問題行動の直接の引き金となる要因 (家庭や学校生活で受ける様々なストレス, いじめ, けんか, 親や教師のしっ責など)  
 抑制要因 = 問題行動の発生を抑制する要因 (行動力, 規範力, 自己決定力, 自己主張力, 耐性, 自尊心など)

問題行動は、『素因1』に『形成要因』がはたらいて『素因2』が形成され、これに何らかの『誘因』がひきがねとなってはたらいて発生するものと考えられる。しかし、このとき素因2の形成や問題行動の発生を抑制する力のはたらきがあれば、問題行動への進行を遅らせたり、食い止めたりすることが可能である。



予防援助とは、本人、家族、学級全体への援助を通して、素因の改善や解決、形成要因と誘因の減弱や除去、並びに問題行動の発生を抑制している何らかの要因『抑制要因』を強化することである。そのためには、予防的な指導援助に必要とされる各要点をふまえ、その順序に従うことが必要である。